



○日常生活の自立の援助について

私たちは、誰でも子どもが自由にのびのびと育てて欲しいと願っています。

そして、また、子どもがいつか大人になったとき、「自分で考え、判断し、行動する」ことができる自由な大人になって欲しいと願っています。

自由であることは、人間が幸せに生きるための第一条件です。

そのための第一歩が**日常生活の自立**なのです。

日常生活

服の着脱、スプーンやはしで食事をする、机をふく、ハサミで切る、あいさつを上手にする……など数え上げたらきりがありません。

☆子どもは「できない」のではなく「やり方」がわからないのです。



「まだできないの!!」
 「どうしてできないの?」
 「何回言えば分かるの?」
 「こうするの!!」

子どもにマイナスなことばをかけていませんか?

毎日の子育てにおわれていると、マイナスなことばがけをしてしまうことも多いかもしれません。

マイナスなことばがけばかりになると、子どももその大人の口癖に慣れっこになってしまい、反射的にその場かぎりの反応をするだけになってしまい、子どもにとってちっとも良くありません。

子どもは、本当に「できない」のでしょうか…?

☆人間には、随意筋と不随意筋という二種類の筋肉があります。

随意筋は自分の意志で動かす筋肉です。ところが、子どもは、まだ自分の思ったとおりに随意筋を使う事ができないのです。「やりたい」のだけれども、どのようにすればできるのかわからないのです。

それを知らない私たち大人は、大人同士で教えるときと同じように、さっさとやってしまって、「分かったでしょう」とすれば、通じると錯覚しています。

そこで、私たち大人は、どうすれば自分でできるか「やり方」を教えてあげましょう。子どもに「やり方」を教えるには、「して見せる技術」が必要です!!

☆「して見せる技術」とは……

言葉で教えるのではなく、黙って、ゆっくり、行動で教えるのです。

- ① 子どもがやりたがっている活動の一つだけにする。
- ② その一つの活動を構成している諸部分を分析する。
- ③ 必要不可欠の部分だけ取り出してゆっくり、はっきり、順序立てておこなう。
- ④ その行為を子どもの前で「して見せる」。
- ⑤ して見せた後に、簡単に言葉で説明する。



順序立て、ゆっくり、はっきり、して見せると、子どもも「ああ、そうやればできるのだな」と理解することができるでしょう。

子どもが興味を示さず、見ようとしなくても子どもの前で何回も何回も、同じやり方で「して見せる」ことが大切です。

例えば、片づけの仕方、机の拭き方のような毎日する動作を、ある時は意識して見るよう促し、あるときはさりげなく、子どもの前で丁寧に「して見せ続けると、ある日突然か少しづつ、子どもは見たとおり実行するようになります。

○幼稚園のお部屋の中の日常生活の訓練の為の教材のねらいは……

子どもの筋肉を正常に発達させる ことです。

・自分の思い通りのことができるためには、まず、自分の体を思い通りに動かすことから始まるのです。

いろいろな行動の自立が進んでいくと、精神的にも自立していきます。

